

---

# 死神がやって来た！

明音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神がやって来た！

### 【Nコード】

N8554C

### 【作者名】

明音

### 【あらすじ】

死神が人間界におりて男この子と暮らしたりする物語！

死神がやって来た！

オレは、竹中 昴たけなか せう（16才）

まあ、ごく普通の高校1年だ！

え〜と．．．．．今は、M・Y・ホームに帰ってる途中！

（自慢だが、超金持つてるぜ！母親と父親がいつも送ってくるんだ！．．．．．あと！結構モテま〜す！）

頭は．．．．．おっ！いつ家に着いたぜ！！

（セーフ．．．．．）

「フ〜疲れた。」

ガチャ

家の鍵を開け中に入った。

自分の部屋に入り、荷物を置いて着替えた。

「あ〜腹減った〜！今．．．．．7時30分．．．．．もう?！」

オレはとりあえず、チャーハンとサラダとスープを作ることにした。

ー40分後ー

「できた」

そして、机に並べたその時！！

ピンポ〜ン

ベルが鳴った

「誰だよ！こんな時に！」

オレは、玄関に行きドアを開けた。

（そして、オレの生活は変わった．．．．．）

ガチャリ

ドアの前にいたのは．．．．．

「チュ〜ッス」

女の子がいた・・・えっ!!

誰?! えゝ?!? えっ・・・まじで誰? 誰誰誰??? 超ー怖いんだけど  
!!!!!!

えっ! 何このカッコ!! なんか見たことあんだけど!?

死神!?!? 女の子の姿(死神)は長袖でなんかすっこい

袖が伸びてて袖・・・ブカブカじゃん!! (でも、指まで伸び  
てるだけか・・・)

しかもミニなズボンなんか・・・ハデな(?) 死神だな・・・  
!

仮面もかけてる!! 骸骨ジャン!! こえゝゝ鎌も持つてるよゝゝゝ  
でかい鎌だよゝゝ

「あっ! ごみん 鎌しまうの忘れてた! 鎌チンよ 首飾りにモドレ  
!」

うつわ!?! なんか鎌が黒い真珠みたいになつて、首飾りになつたよ  
!!

しかも、死神首飾りつけた!!!

髪の毛の色・・・黒で・・・髪短い・・・髪の毛、けさきだけピ  
ンク! ハデ!

「おいっ! 中に入れてよ!!」

はあゝゝゝゝゝゝ!!?!?!?!?

仕方なく死神を、家の中に入れた。

そして、椅子に座らせた。

「いやゝしかもひつろい家! こんな家一人ですんでんのか!」

えっ!! 何で一人って分かったんだ!?

「あっ! えと・・・何かようか?」

死神は、思い出したって顔をして手をポンつとたたいた。  
忘れてたのかよ!

「しばらく、ここにいさせてくれんかの。」

はあ!?! いやいや! 絶対無理! 却下!

「ほかにあたってください。」

「……ねえ！最近さ！！電気代高くなかった？  
そういえば……………」

「高かった……………」

仮面してるし、迫力ある。こわ！

「水道代高くなかった？」

あっ！

「高かった……………」

「ガス代は？」

何この……………死神？！

「高かった！」

「全部・わ・た・し・！」

ふざけんな……………！

「全部お前か！！」

「うん　ねえここにいさせて！」

無理無理無理無理！！！！

「却下！」

「次は・・・マンションぶっ壊すぞ・・・！」

言い方・・・ヤクザじゃんか！

「いてください！」

「やった！」

うっそ~~~~~ん！

..-ㄱへじじ

## 死神の証拠！

「ね・・・・・・・・ねえ。仮面とってください。」

なにこの死神！こつちずつと見てるよ！！

「・・・・・・・・ツチ。」

もう、そんなこと言いません！

「ほれ、とつたぞ！」

か・・・・・・・・カワイ！！死神ってこんな  
カワイイの？！

「仮面・・・・・・・・いらないから捨てといて！」

えゝ！？簡単に捨てていいものなの？

まあ・・・・・・・・いいか！

そして、ゴミ箱に捨てた。

何も、起こりませんように！

「お前、ただコスプレしてるだけじゃないのか？」

まあ、鎌がネックレスになったのはビビったけど・・・・いや！！  
今思えば、だまされてるんじゃない？！

「お前、本当に死神か？ただのコスプレとかじゃないのか！？」

「本物だ！！証拠見せてやるうゝ！！・・・何があるかな？  
・・・空とんだげる！」

死神（？）みたいな子から黒くて、でかい翼があらわれた！！

「ど？本物って分かった？」

「分かった！翼を消せ！！」

家中に羽が散らばった・・・。

「翼出さないで飛べるよ」

先に言えゝ！

「服持ってきてもらうから！スペースあけといてね！」

えっ？服？

「電話 電話と・・・ピポパ！」

ピポパ？！口で言ってるよ！

そういえば・・・こいつの名前なんだろう？  
まあ後で聞いてみるか！

ガチャ！

『ハロハロ メデューサ！』



「あつ！私！」

『えっ！姫様！皆心配してますよ！！』

「大丈夫 壊してないから！」

えっ！壊してないって？何？何かこえ〜〜〜！

つづく

## 死神の証拠！（後書き）

「ちょっと！！まだまだ喋りたいのよ！！」  
「すいません！」

意味不明なところもありますが！  
よろしくお願いします！

暴れる死神！

「なあ・・・・・・・・壊すって何？」

こえーよ・・・・・・・・マジー！！

「・・・・・・・・聞かない方がいいよ？」

やめときます！

『もうすぐ、届きますよ！』

「わー ありがと！この事パパ・ママに内緒よ！」

ブツ

え~~~~~！内緒できたの！！！！！！

ピンポーン・・・・・・・・ピンポン・ピンポン！！！！

あ~~~~るさいな！！！！

そうして、玄関に行った。

「は・・・・・・・・ハア？！？！！」

そこには、手紙が置いてあった。

封筒には・・・・・・・・白紙！

多分、あいつにだろう。

「おい！手紙がきてるぞ！」

もう、家になじんでいる。

カーペットに寝転んでアニメを見ている。

・・・・・・・・くつろぐな！！

「お手紙？あ・・・・・・・・あれ？私のお洋服は？？」

「しるか！」

「え〜っと！なにになに・・・・・・・・色々とあり、届けられそうにも・・・・・・・・。」

・・・・・・・・だつて！・・・・・・・・っざけんじゃね〜！！

！！！！こっちは、今着てる

服しかね〜んだよ！」

キャ〜〜〜〜〜〜！！

暴れるな〜〜〜！

ヤカンなげんな〜！

あ〜！チャーハンが・・・・・・・・サラダが〜〜

「お・・・・・・・・落ち着け！！え〜〜〜と・・・・・・・・お前名前なに？！」

あ……こいつ、よく見たら両方とも目の色が違う！

右は、赤……左は、黄色……って早く落ち着かせな  
きや！！

「名前は！……長いよ？いい？

ハデスアテナモリガンデメル・イシスサマエルリファザリリス・  
……」

……ムリッス……分かんないっす……リ  
スだけ

しかわかんねー！とりあえずリリスを！

「お……落ち着け！あ……明日！！新しい服買いに行こ  
うぜ！！！！な？！」

「マジ！！！」

立ち直りはや！

そうして、一夜を明けたのです！

つづくよ！

オレの布団で……ねんな！！！！



死神と買い物！

「朝―4時・・・・・・・・」

むく

「・・・・・・・・きて！・・・・・・・・起きて！」

むくうるさいな・・・・・・・・。

「なんだよ・・・・・・・・眠いんだから・・・・・・・・どっか行け！」

「・・昴くん！お洋服、買ってくれるんでしょう？！早く行こ！」

行くって・・・・・・・・今4時じゃねーか！！！！

「9時だ！9時まで寝てろ！じゃないと、買わない！」

「たく！！今日は、日曜なのに・・・・・・・・ね・・・・・・・・む。」

「・・・・・・・・ケチ」

文句を言いながら、寝る死神だった。

「ピピピピ！・・ピピピピ！起きろ！昴くん！9時！！！」

・・・・・・・・もう？

「・・・・・・・・行くか！」

顔を洗いたくをすませ、デパートに!!

「うわゝ！なんだ、この建物！人間とか、食べ物だらけだ!!」

見た目からして、お前も人間だぞ！

「あつ!!あれほしい!!あのチェック&フリル&リボン!」

うわゝ!!.....ゴスロリ.....。

「ね!!いいでしょ?買って買って買って!!」

「分かったから、黙れ!!」

値段は.....高!!

5万!!

「これ、も!あとこれも!」

6枚も!!

全部ゴスロリ.....しかも高!!

「レジ行ってくるは.....」

たっけ!!

会計を済ませ食料品売り場に向かう。



「人参と味噌と米・・・あと・・・」

「昂くん これかって！おはぎ？これ！」

「いいけど、食べんのか？」

「初めて見たし、聞いた！」

死神って、こんなの食うのか？

大丈夫かな・・・まあためしに買うか！

そして、デパートをでた。

「昂くん・・・重いよー！疲れるうー！」

「お前が買った、服だろ！自分で持て！あと歩いてないだろ！飛んでるだけだろ！」

「む~~~~~！」

「ほら、家に着いたぞ！」

「わーい！」

「お帰り〜」

「帰ってきたら、ただいまだろー！」

この死神、大丈夫か？

「昂くん！おはぎ・・・一個食べるね！」

パクリ！

もぐもぐ

「~~~~~しゅきゅ~~~~~」

~~~~~「！」

なに！！！何事！？

~~~~~しゅきゅ~~~~~

死神のだめなもの!!

「どっ……どうした?！」

うっわ!何?何が、原因??オレのせい??

「コノオハギ、オイシイ」

心配して、そんした……。

しかも、喋り方へん!!

「んs b h g h k b づいg んd ぶ!!！」

こっわ!!どうしたら、もどんだよ!!!!

「やっぱ、おいし……!!」

あ……戻った!はや!

「昂くん、なにか飲み物ちょうだい」

「いいけど、レモンジュースでいいか?？」

「何でも、OK!」

。オレは、この時別の飲み物にしておけば、と後悔したのだった・・・

「いったただつきまゝすう!」

ゴキユ

ゴキユ

「うまいか?」

返事なし・・・・・・・・

「・・・・・・・・・・ヒック!・・・・・・・・・・ヒック!」

死神の顔が赤い!

酔った、おっさんみたい・・・・・・・・(ツプ)

「ハラホレ~~~~ヒレハレ~~~~ウツケツケツケツケ~~~~  
~~~~」

まじ酔ってる！！レモンか？！死神ってレモンで酔うのか！？

覚えとこう・・・・・・・・・・って！こんなこと考えてる時じゃないな！！

「おい！！死神！！落ち着かんか！！って飛び回るな！！」

「む〜〜〜〜！昂くんの体中お毛毛だらけにしてやる〜〜〜〜！  
昂くんの体の、毛よ！！LONGGO<sup>ロング</sup>」

GOって・・・・・・・・・・う・・・・・・・・・・うわ〜〜〜〜！?!?!?!

体全体の毛が少しずつ、伸びてきてる！！

「落ち着け！！！解け！！！早く解け！！」

「フンだ！」

がんこだな・・・・・・・・・・！！

「そうだ！！必ず、ご飯の後デザート作ってやる！もちろん、おはぎもだ！だから、解け！」

「・・・・・・・・まじで?!」

「早く解かないと、作らんぞ!」

「解かせていただきます」

そうして、解いてもらい伸びた毛を切り続けるのです!

「ごめんね、手伝ってあげる!」

ザク・・・・・・・・

「痛!!手を切るな!毛を切れ!しかも、鎌で、切るな!!ハサミ使え!」

「文句多いよ・・・・・・・・。」

94<JJJ

死神のだめなもの!! (後書き)

ザク

「もう、切るな!!」 (昴)

「ブ~~~~」 (死神)

.....。

こんな、キャラ出してほしい方は、言っ  
て下さい!!  
おまちします!!



死神の敵!!（前編）

ピピピピピピピピ―

カチャ・・・・・・・・

「もう朝か・・・昨日の朝は、大変だったな・・・」

「おいゝしにがつみ!!おいゝわ抱きつくな!!邪魔だ!起きんか!」

「・・・・・・・・プププ・・・・・・・・グあ!・・・クツケ!」

だめだ・・・・・・・・起きない・・・・・・・・こうなったら!

「おい!おはぎが・・・・・・・・!そつ空から落ちてきてるぞ!大量に!」

ガバ!

イソイソ

「昂くん!早く着替えて!網もって!バケツもって!」

・・・・・・・・バカだろ・・・・・・・・落ちてくるわけないじゃん!

「あれ!!レレレのレ?!落ちてないよゝゝ!!」

「あゝ・・・・・・・・それな・・・」

「嘘ついてたら、殺すよ？」

こっわ！？まじ？どーしよ．．．うわ！死神、ネックレスを鎌に変えたよ！

まじで、殺すきでいる！！！！！！

「す・ば・る・く・ん・おはぎどこかな？」

「すっ！すまん！．．．．あ」

あれ．．．．．おはぎって．．．．空から落ちて．．．．．  
こないよな！！！！！！

あれ????オレ怖いから、幻覚見てんのか?????

窓の外．．．．おはぎが落ちてるんだけど．．．．．?

「な．．．．．なあ死神、窓見てみる．．．．まじで．．．．おはぎ落ちてんぞ！！！！

あみ！！網用意しろ！！」

「ほえ？」

クルリ

（死神が、後ろ向いた音）

「わ！！網！！昂くん慌てて！！窓開けて！網出して！できる限りおはぎとって！」

「ああ！まかせろ！！」

「……バカバカしいですね。こんな手に引くかかるとは……  
 ・思いもしませんでしたよ。……それにしても、お久しぶり……  
 ・ハデスアテナモリガンデメテル・イシスサマエルリファザリ  
 リス……さん」

「誰？！！！！」

モグモグ

モシヤモシヤ

「おい！食べながら喋るな！」

「話聞かんか~~~~~!!!!!!」

「だから、だあれ〜っでいてるでしょ！姿も見せないで！」

『フン！まあいいだろう・・・私は・・・』

「つ・づ・く・」

「話きいてやるーよ・・・」

「いのー」

死神の敵!!（前編）（後書き）

『ちよつと、傷つくよ……』  
ガンバレ……

死神の敵!!（後編）

『ま……まあ、いいでしょう……私は、カミナ・ハデナ  
ミ！

忘れたとは、言わせないからな！』

「……………ごめん！まじ分からん。」

『……………まあいい……………私の、姿を見れば思い出す！』

目の前に、現れたのは悪魔……………？

すっげえ！！可愛い女の子！

「あっ！！思い出した！！……………ねえ昂くん。」

「なっ！！なに？」

「今あのこの事、『すっげえ！！可愛い女の子！』って思ったでし  
よ」

ギク！！！！！！

「ま……まあ……………」

なんで?????分かるの????!!!!

『おい……………私は、男だ！！』

「・・・・・・・・・・・・・・・・へ〜〜〜〜〜〜・・・・・・・・・・うつ〜〜〜〜」  
「！！！！！！」

『殺すぞ！！』

「すいませんでした」

「キャキャキャキャキャ！！」

『笑うな！！』

「で・・・・・・・・何しにきたの？」

『あ！！忘れてるところだった！！あんたの親父が、私の尻なでたり・  
・・・・・・・・なげキッスとかすんだよ！！だから、逃げてきたんだ！！お  
前さえ、家に帰ってくれば・・・・・・・・わざわざ私の家に来て・・・・・・・・  
ピーーーーーーやピーーーーーー何て・・・・・・・・しなくなる  
んだよ！！』

気の毒に・・・・・・・・。。。

「だったら、人間界で何日かいたらいいじゃない？」

『あ！！そっか！！なるほど〜〜〜〜・・・・・・・・ってそう簡単にいく  
か！！』

「・・・・・・・・ツチ」

「あ……あのさ……」

『なに!!!』

「オレの家、広いからさあと、部屋ひとつあまつてるから泊めてあげるよ……。」

（あと、こんなとこ見られたら、どうなるか分からないしね）

『あ~~~~!!!何とお礼をしていいにやら!!!』

キャラ変わりすぎ!!

「いやだ~~~~!!こんなやつとも暮らすの!!!いや!!!」

「おいだしてもいいんだよ?」

「おいだして!!!」

「お前もだからね?」

「さ!!!ナミちゃん!これからヨロシクね 取ったおはぎでも、いかが?」

「食べる!!!」

「昂くんも、食べるんだよ!!!はやく部屋の中に入りなよ!!!何一人で、ベランダで立ってんの?」



帰りたくないのかよ!!

.....まあいいか!

お茶入れよ.....。

「なにやってんだよ!!おい!こら死神!!」

『机の上で。踊らないでください』

「.....ブ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~」

こんな生活が、まだまだつづく!!

悪魔の兄弟!!

ピピピピピピ・・・

ガチャ

『・・・もう、朝ですか・・・』

私は、カミナ今日から昴さんの家で、生活です。

おっと!

着替えなきゃ・・・

結構この部屋広いな・・・

ガチャ

部屋を出て、リビングにむかう。

んっ!

いい匂い・・・昴さん起きてるんだ。

「おっ!!おはよ

「おはようございます!」

「あのさ、死神起こしてくんね?!」

「えっ!」

やっぱ、カミナくんでもいやか……

「ん~~~~~~~~……ハレレ?おはよ~~~~……おやすみ」

「もう!ー!寝んな!」

「なにさ、もう!ー!」

たつく……ん?なんだこの音!

ピロ〜ン ポロ〜ン

「あっ!ー!私の、携帯の音です!……もしもし……こちらカミナです。……」

『あっ!兄ちゃん?』

「はい?……スウか?!」

『そうです』

へ〜カミナくん妹いたんだ……(というか……まるで声……)

『そこに、もうつきま〜す!』

カミナ・昂へえっ！?!?!?」

『ブツ』

え~~~~~！妹さんがくんの！?

「あの……今すぐヘルメットしてください!!」

は?!なんで?妹さん来るんでしょう?

「昂くん……まじで!ヘルメットしろ!!!早く!!私も、専用のヘルメットあるんだから!」

死神ヘルメットしてるよ……ださ!

「スウは、手段をえらばないんです!前に友達の家に行く時ダイナマイトを落として友達の家壊しましたから……。」

しなきゃね!

カチャリ……ヘルメットOK!

ゴゴッゴゴゴゴゴゴ!!……!

「な……なんだ!?!」

「たぶん……スウちゃんだね」

「おそろく・・・」

こえ~~~~!!まじ!まじまじ!

ゴゴゴ・・・ピタ・・・

ん?

ピンポン

・・・普通~~~~!!

「ははは・・・」

「昂くん~~~~!キャハハ!なにヘルメットしてんの?!キャハハ!おつかし~~~~!」

お前も!・・・つけてね~~~~!誰のせいだと!

ドンドン!

あつ!開けんの忘れてた!

「はい」

『おっせ〜んだよ!』

「すみません」

こわ~~~~!・・・でも、よく見ると・・・この子髪金髪で長

くて二つぐり……可愛い……。

『何見てんのよ……キシヨ!』

うっ!……傷つく……(ぐすん……)

「スウ!」

「おっ!? スウちゃん さっそく傷つくことサッと言ってるねえ!」

「本音でいっちゃうからな。」

早く言ってほしかったよ

『お邪魔します』

うそ……!!

うづく

悪魔の兄弟!! (後書き)

スウ『お茶!ないの?』

わがまま!!

昂くん・・・ガンバ!!

悪魔のケンカ！

『昂さん……だっけ？』

「えっ？！あ……うん」

『お茶ぐらい、出せないの？』

「スウ！！いい加減にしろ！」

ナイス！カミナくん！

『なによ！お兄ちゃんだって、リリースのパンがくるから出て行って私があんなことやこんなことまで、されてんのよ！！』

「……………」

否定できないの……………か

『デパート』

「えっ？」

『兄ちゃん！！デパート行こ！ほんで……家に帰るの！』

「無理」

『行くの！！！！』



「無理」

『行く！行くいくいく！！』

「無理無理無理無理」

『ああ？行くつつたらいくんだよ！！このアマ！なめやがって！』

「ほゝ！われない根性してるなゝ！デパート行っても、おのれのもん買わんからなあ！」

この二人、まじ！！まじまじまじ！！こえゝゝゝゝゝゝ！！

いつも、こんなケンカしてんの！！！

『・・・・・・・・ごみんね お兄ちゃん！』

「分かったよ！帰るか！」

『ママも心配してるからさ！お土産買いに行こー！』

「そうだな！」

仲直りはやー！

「・・・・・・・・つまんなゝゝゝゝゝゝい！！もつとおー！」

「お世話になりました！」

『バァーイ!!』

二人は空を飛んで帰りましたとさ!

翌朝~~~~~

「昂くん!!あのさ!」

「なに?」

朝ごはん・・・・・・・・おはぎ・・・・・・・・いつも、夜はカップめん・  
・・

今日ぐらいは作るか・・・・・・・・

「遊園地行きたいな!」

「却下」

「なんで~~~~!!」

「破壊しそうだから・・・・・・・・」

「しないから~~~~!」

するきだったのか!?

「でも、却下!」

「……ぶっ殺すぞ」

「早く準備しろ!」

「わい!」

こわ~~~~~!!

く~~~~

**悪魔のケンカ！（後書き）**

~~~~~お知らせ~~~~~

次回は、なんと！！

『悪魔が現れた！！』

を書いた人と合成します！

オリジナル？

お楽しみに

## 死神と学校！？（前編）

オリジナルの後編は、もう少しお待ちください！

ピピピピ・・・ガチャ！

「ん~~~~・・・うつわ！今日学校だ！やべ！」

「ん？なにことお~~~~・・・」

のんきなやつめ！

「オレ学校だから、留守番ヨロシク！」

よし！顔、歯OK！

「パン・・・（モグモグ）オーハイ！・・・」

「やだ！！私も行く！」

「・・・・・・・・お前髪伸びたな。肩まで伸びとる！」

関係ない話をしたら、忘れるだろ！

「今そんな事言ってるじゃないの！」

「引つかかないか……」

「うん！」

「じゃ！行つてきまゝす！」

「行つてらっしゃい！」

ボタン！

引つかかった……。

「……あ！！」

「だから、私もい……！」

ふゝ久々の学校で死神連れて行つてら、どーなるか……。  
予想はつく……)

「勝手についてくも……んだ、みも……んだ！」

きんこーんカーンコーン……。

ギリギリ……。

「おっはー！久しぶり！スーちゃん」

「よっ！ってかなに？口にくわえてんの？！」

「えっ？朝ごはんの和牛ステーキのお・に・くだった！」

また自慢かよ！

こいつは、金もで自慢がすき！

羽柴 美紀 つつ名前・・・・・。

切れたらすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんすんげ怖い・・。

ガラガラ！

ん？先生か？はい  
・  
・  
・  
・  
・  
！

「すうばあるうくうんってこしら……! いた!」

ついてきた・・・・・・ヤバイヤバイヤバイヤバイ！

「すくちゃんあの可愛い子誰？」

「えっといと……！」

「居候の、死神でえゝす！」

おい！

「へゝ変わった名前だね！」

「……………ッホ！」

「だから！死神！」

「えっ？チモコミ？」

「ちがう！し・に・が・み！！」

「？ほつとドックおんな？」

「……………ぐすん……………」

「昂くゝん……………」

「よしよし」

「つじゃね……………」

「オレ何言ってるの？！」

「キモ！」

「おい！美紀、ちゃんとやってやれ！」

「えっ？デブリン大統領ちゃんって？」

「頭大丈夫か？」



こいつ耳聞こえてんのか!?

「……………いいね!デブリン大統領ちゃん!」

死神!気に入るな!!はつきり言って、キモイ!まじキモイって!

ガラガラ!

「せきつけ!ホームルー……………きみ!!誰だね!」

「えっ?」

「死神のことだよ!」

「ああ!私!?私は、『この世で、最も美しく、高貴なお方!』ズバリ!……………」

嫌な予感が……………

「デブリン大統領様よ!」

……………予想的中。

「……………はい?」

先生も、あきれてるよ。

ザワザワ!

みんな・・・・・・・・オレとこいつは無関係！

って言えたら・・・・・・・・

死：【このままだとおきりがないので！次回！会おうね！  
b  
y、デブリン大統領様】

昂：【・・・・・・・・え~~~~~！お前が言うな！】

死：【いゝの！言いたかったの！  
b y、デブリン大  
統領様より】

死：【あとお！私に質問とか聞きたいこととかあったら、ジャンジ  
ヤン送ってね  
私が、答えまゝス！私じゃなくてもOKよ！】

昂：【まじ！？】

死：【待ってるよお！】

昂：【待ってるよ！】

死神と学校！？（前編）（後書き）

！！！！！募集中！！！！！！

1、このキャラに質問など・・・

2、こんなキャラ考えたので出してください！など！

あとは、何でもいーよー！

死神と学校！？（後編）

先生、どうする！

先生のかなう相手じゃないぞ！

「・・・・・・・・まあ、いい！」

いいんかい！先生！

「えーと、今日から新しい友達が入るぞ！さあ入ってきなさい！」

へー転校生か！

「美紀、その子の名前知ってるよ！」キシヨイ名前ですんまそんべりリアン！」

なんだって！素敵じゃない？！」

キモイよ・・・・・・・・お前へんなヤツだな・・・・・・・・。

「つぶ！変な名前~~~~~！キャハハハハハハはハハハ！」

笑いすぎだって・・・・・・・・。

ガラ！

おっ来た？！

「ども・・・・・・・・。フシカイネ・スガラムミハっす！」

新キャラきた~~~~~！

と言うか、美紀が考えた名前だったのか…………。

は~~~~それにしても死神ずっとオレの横に立ってて笑えばなしなんだけど…………。

「え…………その女子！竹中の横の席に座りなさい！ちょうど二人分あいてるしちょうどいいじゃないか！」

もう、生徒としてあつかってんのかよ~~~~！！

「きみは…………竹中の横の女子の横の席に座れ！」

「う〜い。」

こいつ、髪茶色で目は緑色かよ！キャラ男だな〜。

ピク！

「リリス？どこにいたんだ？ずいぶん探したよ！愛するリリス！」

え…………本名知ってるって事は…………こいつは…………死神とか何かなワケ~~~~~？！

「あんたか…………死んでなかったのお〜？残念」

こわ！

「まさか、きみが落とし穴を作っていて、私が穴に落ちて、大きな石でフタをして  
出られなくても死ねないよ！なんせ、きみを愛してるからかな！愛のむちなんだろ？てれやさん」

殺そうとしたのか？！

「キモチわる・・・・・・・・キャハ！」

・・・・・・・・つづく

きのご取り！

まったく・・・

今日は、学校で恥かいたし・・・あのチャラ男系の男子も死神にひっついて・・・

はー今日は、ゆっくり風呂入るとするか・・・

「死神ーオレ風呂入るから、家からでんなよ！管理人さんの部屋で、お茶とかするのもだめ！

違う人の家にいたずらするのもだめだからな！！」

「えー・・・！つてお風呂？ここあつたんだ！」

あつたんだ？まさか・・・入ってねーの？？？どーりで・・・ちよつと変な匂いが・・・

「私も！！入る！！」

無理

「だめ！ていうか、無理無理！」

「やだやだ！はいるったら入っちゃう！！」

落ち着かせないと・・・

「ノラリのとのろみしてやるから！な！オレがあがったら、お前ちゃんと風呂はいるんだぞ」

「ラジャ！であります！！」

なーんか、聞いたことある……ような

「じゃ、おとなしく見てろよ！」

「ふ……おい！死神次風呂、入れ！」

「ん！OKで、あります！！」

「どこで、覚えたの！？」

くせになるじゃねーか……

「お隣のお隣のお隣の……男の人」

「もう、絶対会っくんじゃない」

「なんで！」

「いいか！覚えろよ！知らない人に、ついて行ってはいけない！分かった？」

こいつ、小学生なみだな……

「お風呂、入ってくる！」



人の話聞けよ……

「きゃ~~~~!!」

なんだなんだ!

「お風呂場に、きのこ生えてる!!!!」

「は~~~~?」

「人面~~~~!!!!」

「ギャハハハハハハハハハ!!!!」

こうして、死神は眠りに着いたのだが……昂は

翌朝まで、100個のきのこを抜いていた……。

きのご取り！（後書き）

人を、募集します

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8554c/>

---

死神がやって来た！

2010年12月17日03時24分発行